

「やっぱり『二十歳のころ』というのは、どの人にとっても、その人の人生が、不定形の可能性のかたまりから、ある形をなしていく過程での最もクリティカルな時期なのである。」

東京大学教養学部立花隆ゼミの二十歳のころ〈1〉
1937 - 1958 — 立花ゼミ『調べて書く』共同製作 (新潮文庫)より

谷川俊太郎(詩人)

詩集『二十億光年の孤独』を発表。

1 作目にして代表作。

一万有引力とは ひき合う**孤独**の力である
宇宙はひずんでいる それ故みんなはもとめ合うー

相談室だより No. 8
テーマは「二十歳」

佐藤オオキ(建築家、デザイナー)

デザインオフィス「nendo」(ネンド)代表。

「ありそうで、なかった」を形にする、世界が注目する人気デザイナー。現在、建築、インテリア、プロダクト、グラフィックと多岐に渡ってデザインを手掛け、世界 20 か国を超える企業からオファーが舞い込み、常に 250 もの案件を抱えている。しかし、駆け出しの 20 代は「それでもダメかという手応えばかり。社会から必要とされていないと感じていました。」

スティーブ・ジョブズ(実業家・資産家)

「僕にとっては真剣な探求の旅だった。僕は悟りという考え方に心酔し、自分はどういう人間なのか、なにをすべきなのかを知りたいと思ったんだ」この時、19歳。**インド**へと向かう。日本人老師との出会いにより、出家を思い留まる。
…21歳には、「Apple I」を販売。

山本耀司／川久保玲(ファッションデザイナー)

世界的評価を受けるヨウジヤマモト。慶応義塾大学法学部→文化服装学院を卒業という異色の経歴。

「デザイナーなんて職業があるとも知らず、所有も求めず、**軽々と果然と**日々を送っていた。」今年、NY **メトロポリタン美術館**で、コム デ ギャルソン展が開かれた川久保も二十歳の頃にはデザイナーとしてのスタート地点に立ってはいなかった。「黒の衝撃」で西欧モードを揺るがせた二人は今なお第一線で活躍。

鈴木一朗(プロ野球選手)

プロ1年目は泣かず飛ばず。
2年目に振り子打法を編み出し、登録名を鈴木一朗から「**イチロー**」に変更!日本球界初のシーズン200本安打達成。

リリー・フランキー

(イラストレーター、ライター、エッセイスト、小説家、ミュージシャン、アートディレクター、作詞家、作曲家、演出家など)
誰でも就職できるというバブル期に、就職をせず、家賃・電気代・ガス代を滞納し、公園にトイレを借りに行く生活だった20代。
「自分へのプライドは低くても、**藝情と美意識**だけは常にあった。」

秋山竜次(コント師)

おしゃれな雑貨店の面接はことごとく落ち、嫌だったらやめればいいと軽い気持ちでNSC(吉本総合芸能学院)に入ったのが二十歳を迎える年。「うまくなかった。そして金がなかった。」時代を経て、「ロバート秋山の**クリエイターズ・ファイル**」で独自のスタイルを確立。

